

# 集中できる授業を展開する



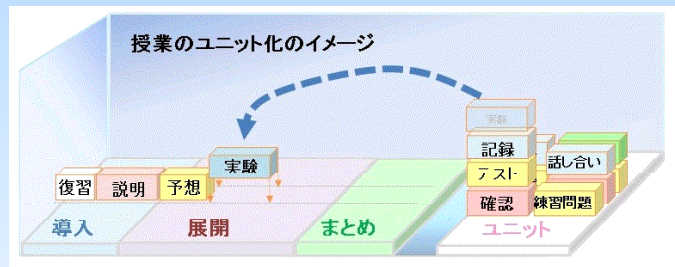
## Point 1 リズム感のある学習 ～集中力を高める～

### 特別支援教育の視点から

子どもたちが授業で学力を付けていくためには、集中しやすい授業展開を工夫していく必要があります。子どもが一つのことに集中できる時間は、10分～15分位と言われています。ずっと話を聞いたり、同じ活動が続いたりすると集中力の持続が難しくなります。学習内容をいくつかの短い時間に分けて、メリハリをつけ、リズム感のある授業を構成すると集中力が持続しやすくなります。

### ●授業のユニット化●

授業を10分～15分程度の短い時間ごとで組み立てます。作業や話し合いなどのユニットを3つ～5つで構成していくことにより、変化のある授業となり集中力が持続しやすくなります。



### ●動と静の組み合わせ●

動（書く、話す、作業する、手を挙げる、起立するなど）と、静（見る、聞く、考えるなど）を組み合わせることで脳を適度に活性化させたり、休めたりできます。そのことにより、集中し、落ち着いて授業に取り組むことができます。



ADHDなど発達障害のある子どもの中には、授業中に体を動かしたいという欲求が高い子どもがいます。その場合、きつく叱ったり、強制的にじっとさせようとしたりしても改善するものではありません。「授業中にプリントの配布係をさせる」、「黒板に書かせる」、「全員に動きのある活動をさせる」など、公然と動ける機会を多くすることで、脳が刺激され落ち着くことがあります。

## Point 2 導入 ～やる気と見通しを持たせる～

### 特別支援教育の視点から

授業開始の挨拶は、休憩時間と学習の時間を切り替え、学習への心構えをつくります。また、授業に集中して取り組めるかどうかは、授業の導入によって大きく左右されます。導入では、「できそう」、「やってみよう」という意欲を高め、やる気と見通しを持たせることが大切です。導入で授業の流れを提示して見通しを持たせることで、集中しやすくなります。

### ●目標(めあて)と流れの明確化●

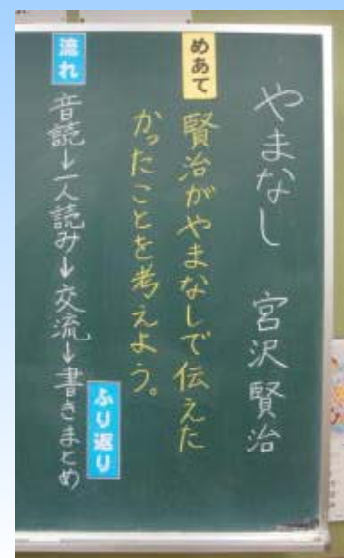
本時の目標(めあて)を明確にするだけでなく、学習の流れも示すと、見通しを持って取り組むことができ、集中力が持続できるようになります。目標(めあて)は、授業のまとめの際にも活用します。

### ●基礎的な知識の復習●

導入で、前時の学習を振り返ったり、既習事項の復習をしたりすることは、本時の見通しを持つことにもつながり、やる気を高め、主体的に学ぶ意欲を引き出します。また、授業の最初にフラッシュカード、小テストなどで復習することにより、基礎的な知識の積み上げを行うことも大切です。

### ●興味を引き出す発問や具体物●

興味・関心を引き出す発問と具体物の提示は、授業に取り組む子どもの意欲を高めます。聞く・見る・触るなど聴覚や視覚、身体感覚などの五感に働きかけるとさらに効果的です。



目標(めあて)と流れの板書例

## Point 3 展開 ～多様な学習形態で個々の力を高める～

### 特別支援教育の視点から

学習形態(指導形態)は学習内容の定着を左右するとても重要なものです。学習形態を工夫することで、子ども同士のコミュニケーションが図れ、学習意欲を高め、理解が深まります。子どもの実態や学習内容に応じて、最も適切な学習形態を組み合わせ、効果的な学習が行えるよう工夫する必要があります。

### ●個別学習●

個に応じた対応をするためには、一斉指導だけでは困難な面もあるので、個別学習に取り組める工夫が必要です。

- ・ やり方が分かる手立てを示す。
- ・ 自分のペースで学習課題に取り組むことができる工夫をする。  
自分のレベルに合った活動が選べる工夫(A問題やB問題など)  
課題の分量を調整することができる工夫(5問コースや10問コースなど)
- ・ 分からないときは、ヒントを見ることができる工夫をする。  
書き方が分からない→書き方の例を見ることができるなど

第3回 分数のたし算

①  $\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$

②  $\frac{1}{3} + \frac{1}{5}$

第3回 分数のたし算 (ヒントあり問題)

①  $\frac{1}{2} + \frac{1}{3} = \frac{\square}{6} + \frac{\square}{\square}$

②  $\frac{1}{3} + \frac{1}{5} = \frac{\square}{\square} + \frac{\square}{15}$



中学校でのペア学習の様子

### ●ペア学習●

全体の中で意見を発表することが苦手な子どもにとっても、自分の意見が述べやすくなります。自分の意見を述べることは、学習に参加し学習を深めることにつながります。

### ●グループ学習●

複数子どもたちで相談することにより、多くのアイデアが出しやすくなります。グループ学習を充実させるための手立てとして、次のようなことが考えられます。

- ・ 人間関係などを考慮し、隣に座る子どもやグループの人数に配慮する。
- ・ 子どもがグループ学習で何をするのか、内容や方法が具体的に分かるようにする。
- ・ グループのメンバーの役割(司会、記録、用具管理など)を明確にする。
- ・ 聞くとき、話すときなどのルールを確認しておく。
- ・ できるだけ発言するなど、一人一人の考えをしっかりとめさせることを基本にする。



中学校でのグループ学習の様子

## Point 4 まとめ ～達成感・充実感を持たせる～

### 特別支援教育の視点から

自分や友達の学びの振り返りや評価は、一人一人の理解を確かにします。また、分かった・できたという達成感や充実感を味わうことで、学習意欲が持続するようになり、自尊感情も高まっていきます。

### ●本時の振り返り●

板書を活用し、本時の目標(めあて)に立ち返って授業を振り返ることにより、学習のポイントが明確になります。例えば、重要なポイントをまとめたり、自分で問題を作成したりするなど、ノートやワークシートにポイントを書くことで、定着しやすくなります。

### ●評価●

授業の終わりは、分からなかったことが分かるようになったり、教員や友達から評価されたりするなど、子どもの達成感や充実感を感じ取れるような工夫が大切です。こうした自己評価や相互評価が、次の意欲へとつながっていきます。

